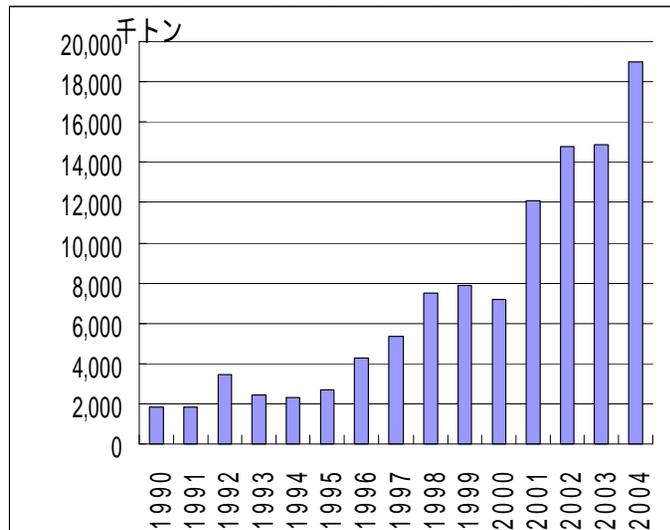


循環資源の越境移動

- 経済成長による中国をはじめとしたアジア地域における資源需要の増大を背景に、循環資源や中古家電製品などの国際移動が活発になっています。日本からの循環資源輸出量は、10年間で約9倍に増加しています。
- こうした中で、中古製品と称してバーゼル法の規制対象となる循環資源の偽装貿易が行われたり、途上国において環境上不適切なりサイクルが行われたりしているとの指摘があります。

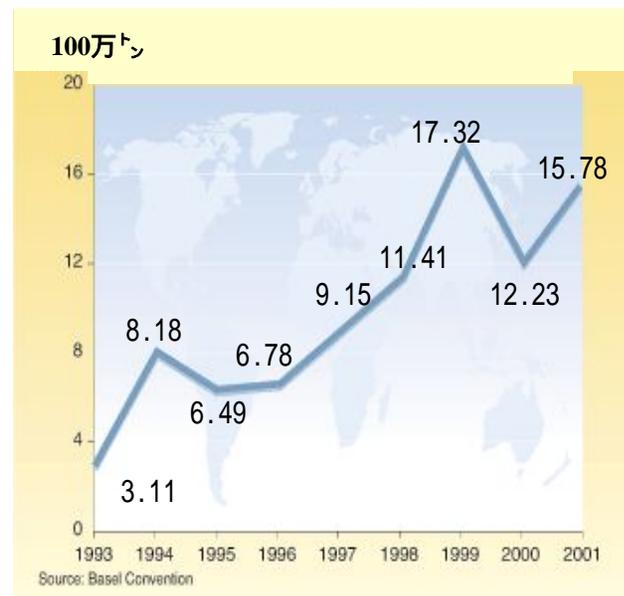
日本からの循環資源の輸出量の推移



循環資源の内訳はプラスチックのくず、スラグ等

出典：中央環境審議会循環社会計画部会資料より作成

有害廃棄物等の越境移動の推移



出典：バーゼル条約事務局資料

途上国におけるリサイクルの様子

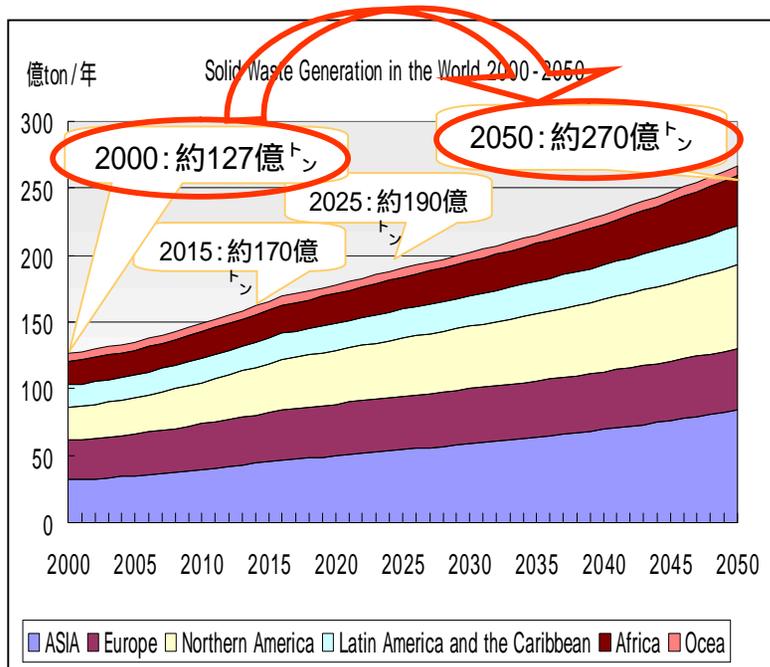


出典：タイ天然資源・環境省

世界的な廃棄物発生量の増加

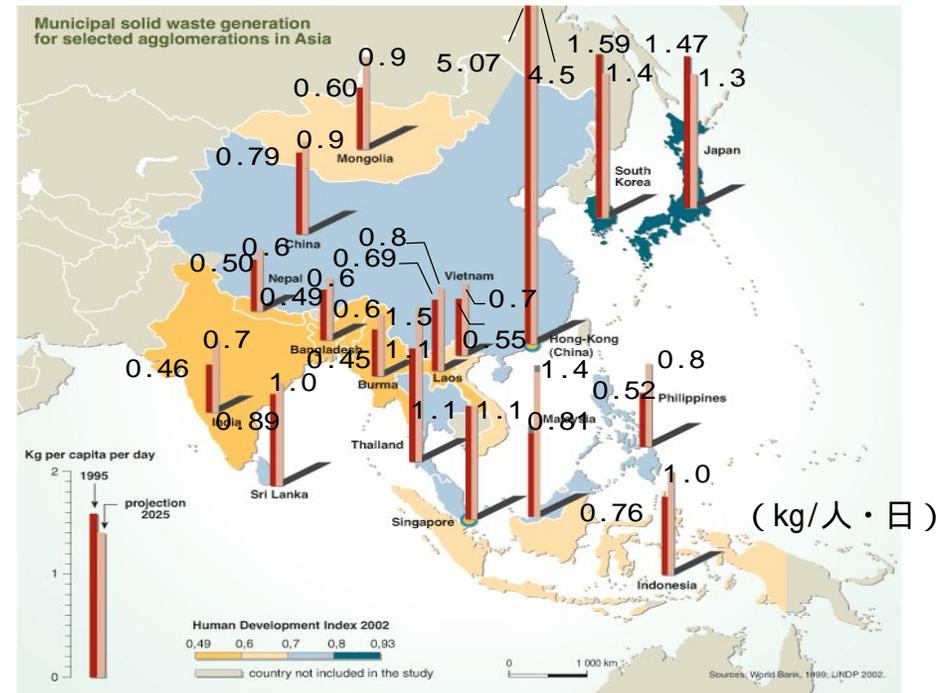
- 世界の廃棄物発生量は、2000年の約127億トンから2050年に約270億トンに増加するとの予測があります。
- 特に途上国では、経済成長に伴い、廃棄物発生量が急増する見込みです。

世界の廃棄物発生量の将来予測



出典: 吉沢佐江子、田中勝ほか 世界の廃棄物発生量の推定と将来予測に関する研究

東アジア諸国における都市ごみの1人当たりの
ごみ発生量(1995年)と将来予測(2025年)

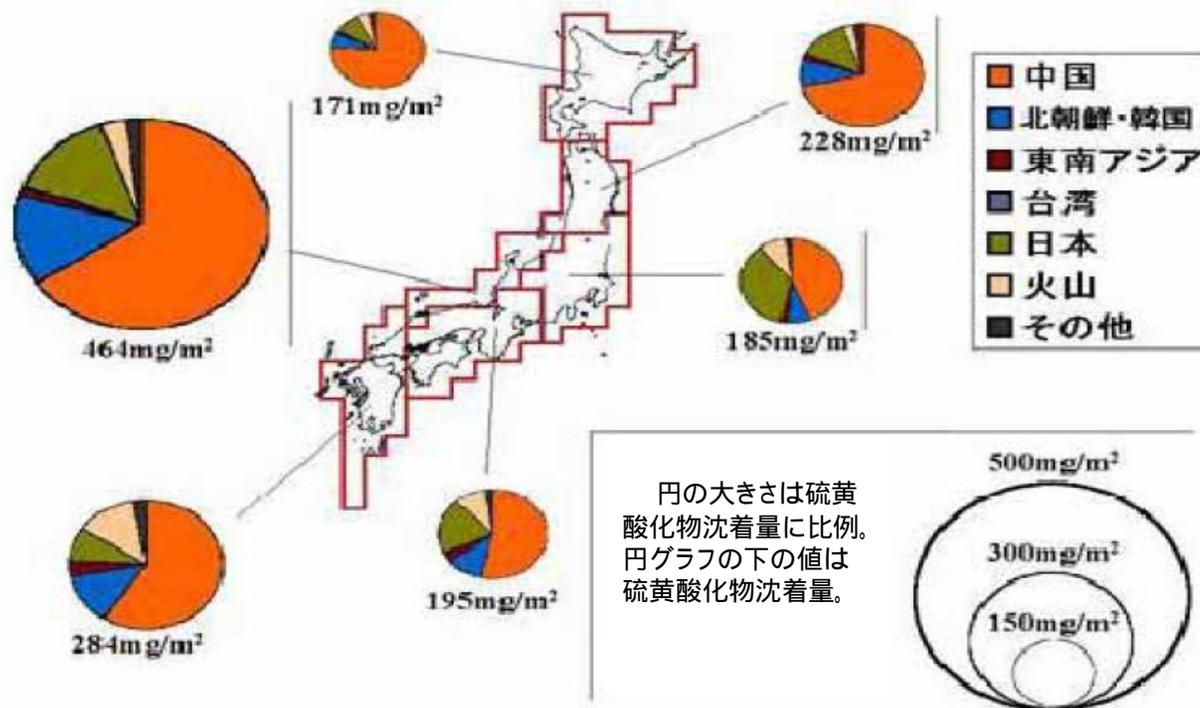


出典: バーゼル条約事務局資料

国境を越えた酸性雨の問題

- 酸性雨の現象が国境を越えて広がっています。
- 日本における硫黄酸化物沈着量の発生源を地域別に見ると、中国の割合が高くなっています。

日本の硫黄酸化物沈着量とその発源地域別割合 (1999年1月15日～2月15日)

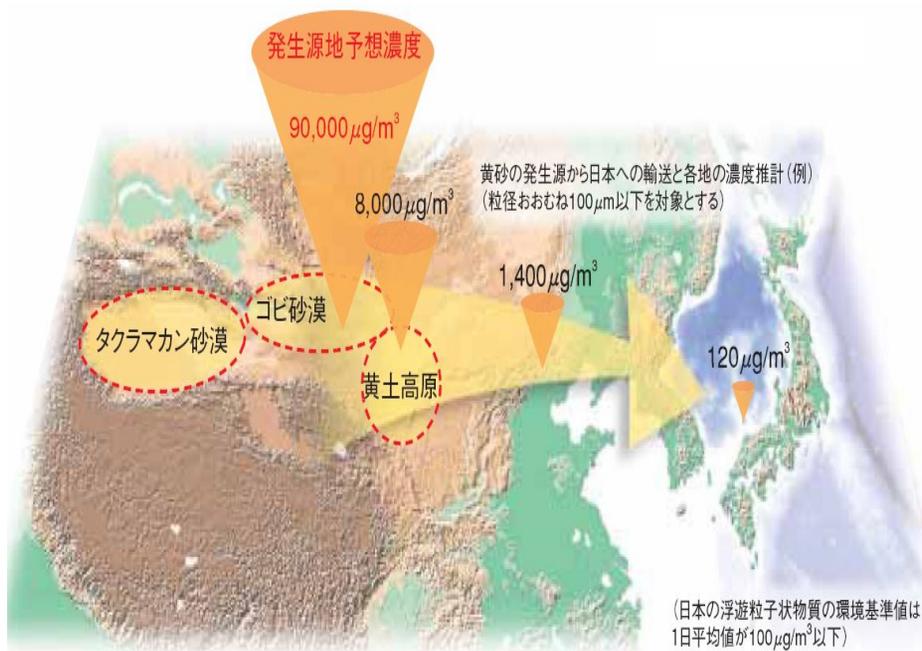


出典: 環境省地球環境研究総合推進費終了研究報告書
「東アジア地域の大气汚染物質発生・沈着マトリックス作成と国際共同観測に関する研究」
研究代表者: 村野健太郎 (独) 国立環境研究所 (平成11年度～平成13年度)

国境を越えた黄砂の影響

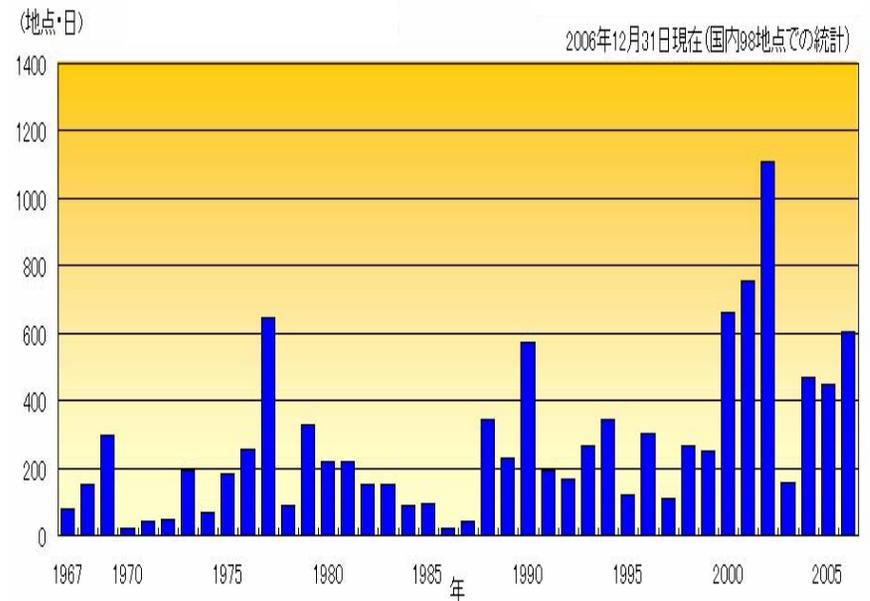
- アジア大陸の広範な地域で黄砂現象の発生が見られます。
- 国内観測地点での黄砂観測延べ日数は、1988年以降は頻繁に200日を超えており、2000年以降は2003年を除き、特に多くなっています。

黄砂の発生源地域



出典：環境省

気象庁による年別黄砂観測延べ日数



観測延べ日数は日本の各観測地点で黄砂を観測した日数の合計数
(国内98地点での統計、同じ日に5か所で観測した場合は5増える)

出典：気象庁

東アジアに広がる海洋汚染

- 船舶の往来の多い日本近海では、頻繁に油流出事故が起っています。平成9年のナホトカ号の油流出事故の際は、0.6万キロリットル以上の重油が流出し、日本海に面する9府県の海岸に漂着、約1,300羽の水鳥に被害が生じるなど甚大な環境影響がありました。
- 生活排水等の海への流入による富栄養化により、世界的に赤潮が発生しています。たとえば東シナ海では、長江の河口沖、渤海等で大規模な赤潮が発生しており、漁業や養殖業に大きな影響を与えています。

ナホトカ号油流出事故(平成9年)



赤潮の発生

